

## 株主メモ

事業年度 1月1日から12月31日まで  
定時株主総会 3月中  
株主名簿管理人 日本証券代行株式会社  
特別口座管理機関 日本証券代行株式会社  
同事務取扱場所 日本証券代行株式会社 本店  
公告方法 電子公告により行います。  
ただし電子公告によることができない事故その他やむを得ない場合は、日本経済新聞に掲載します。  
なお、電子公告は当社ホームページに記載しており、そのアドレスは以下の通りです。  
<http://www.optorun.co.jp/>

## ホームページのご案内



トップページ  
<http://www.optorun.co.jp/>



IR情報ページ  
<http://www.optorun.co.jp/ir/>



### 株式会社オプトラ

【東京オフィス(本社)】  
東京都豊島区西池袋1-11-1  
メトロポリタンプラザビル11階  
TEL: 03-6635-9487  
FAX: 03-6635-9497

【川越技術センター】  
埼玉県川越市竹野10-1  
TEL: 049-239-3381  
FAX: 049-239-3394



# 第22期 株主通信

第2四半期

2020年1月 1日から  
2020年6月30日まで



## IOT時代を切り拓く

株式会社オプトラ

証券コード：6235

## 社長メッセージ

- 新たな最高度成膜技術を新型装置に反映します。
- 前年対比では減収減益ながら、各種新型装置の受注・売上が本格的に貢献し始めています。
- 研究開発型企業として、ハイエンドの光学薄膜装置の開発を加速します。  
広角レンズ・ミニLED・バイオセンサー等新たな成膜ニーズに、  
新成膜技術開発により先行対応して行きます。
- 生産コスト削減にも注力し、市場への高付加価値装置提供と高収益性をさらに追及してまいります。

代表取締役  
社長執行役員 林 為平

当上期(2020年12月期上期)の連結業績は、受注高188億円(前年同期比5%増)、受注残高347億円(前年同期比13.8%増)、売上高165億円(前年同期比37.8%減)、営業利益36億円(前年同期比50.6%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益28億円(前年同期比51.9%減)と減収減益となりました。また、2020年12月期の通期計画に対する進捗率は、売上高では35.9%(通期計画462億円)、営業利益は30.4%(通期計画120億円)、親会社株主に帰属する四半期純利益は31.3%(通期計画92億円)です。

北米スマートフォンメーカーからの受注分の売上高計上が昨年で完了し、2020年は受注期となったことから、この分の減少が主な売上高減の要因となりました。また、新型コロナウイルスの影響から、海外顧客が投資を抑制し、これも相俟って売上高に影響しました。

なお、スマートフォン関連の売上高実績は、非北米系メーカー向けの筐体バックガラス(加飾膜)やカメラモジュール用です。カメラレンズも新型コロナウイルスの影響を受けましたが、監視カメラ向けや一眼レフカメラ向けの売上高を計上しました。

明るい話題としては、IoT分野で、車載・生体認証・半導体・光通信・AR/VR等のそれぞれの分野で、売上を確保したことです。光学薄膜の応用分野の拡大を明示する売上高実績となっており、今後の成長が見込まれる分野です。

スマートフォン市場はカメラ多眼化、ガラス筐体への加飾、背面カメラに搭載される3Dセンシングへの成膜需要が期待されます。さらに、車載関連、生体認証関連、半導体関連、光通信関連、AR/VR関連等のIoT分野は成長分野です。車載では、インストルメントパネルやセンサ

機能等の成膜需要は拡大するものと思われ、生体認証では、スマートフォンや市街地や空港等での顔認証や指紋認証等活用され、今後の需要拡大が見込まれます。半導体ではウェハーレベルでの光学薄膜成膜をする新たな生産手法の取り入れが進んでおります。また光通信では5G対応に向けた通信機器部品への成膜需要が強く、当社の新型・光通信用蒸着装置への需要は強くなっております。また、ALD装置の初の受注を獲得し、現在、複数企業が検討中であり、新たな市場として、今後、広角レンズAR膜への展開、ミニLEDへの応用が期待できます。また、医療用分野ではX線FPDシンチレータ真空成膜装置の売上がありました。また、LEDにおいても照明器具等の潜在需要は強くあります。このように、当社はここ数年で、各種の新型装置の研究開発を加速してきており、その成果が受注・売上高の計上となる収穫期に入り始めたと思います。さらに、大学との共同研究の成果を生かして、バイオセンサーの研究開発も本格開始しました。

現在、新型コロナウイルスや米中間の摩擦等により、市場は不透明な状況にあります。事態の推移を注意深く見守りながら、それらが当社事業へ与える影響を最小限とするよう努めてまいります。

当社は、常に最高度の光学薄膜成膜技術を反映した新型装置開発を継続し、市場をリードし、市場を創造して行くビジネスモデルを一層徹底し、社会から求められる高品質・高性能な成膜技術の提供に努めてまいります。また、装置製造での効率生産や部材調達コストの削減にも努め、高収益性を維持するように取り組んでまいります。

株主の皆様には、引き続き当社グループへのご支援・ご鞭撻をお願い申し上げます。

## 新型コロナウイルス拡大の影響について

弊社事業への影響や対策に向けた取り組み等をご報告いたします。

## 新型コロナウイルスへの対応

- 日本国内では、緊急事態宣言に対応し、在宅勤務、その後、時差出勤を行い、出張見合わせ・マスク着用・消毒・社内のデスクに透明パーティションの設置・毎日の健康チェック等を徹底しました。また、海外拠点では、上海・台湾において、現地従業員の在宅勤務・時差通勤・危険地域在住社員の一定期間自宅待機等を行いました。幸いにも、現在までグループ内で感染者は出ておりません。
- その後、上海では、2020年2月より生産を再開し、現在は全社員が工場復帰しフル稼働状況となっております。装置出荷実績も通常の状態に戻っております。また、台湾でも、業務は正常化しております。当社グループでは、引き続き、徹底した感染予防対策を継続し、衛生管理に努めます。
- 事業運営につきましては、営業・研究開発とも、顧客の近くに拠点を設置し、横断的に事業を運営しております。きめ細かい顧客への情報提供・サービスに努める当社のビジネスモデルを活用し、地域内での研究開発および顧客コンタクトの活性化を図っております。また、地域の感染リスク対策として、一時的に研究開発プロジェクトを拠点間で移管して、開発活動のための出勤可能な体制を維持し、プロジェクト進捗遅延を最小限に抑制しております。

## 顕在化した影響

- 当上期では、前年同期比で、受注高は9億円増加の188億円、受注残高は42億円増加の347億円となっております。ただし、2020年に入り、市場の動向は、経済活動の停滞に応じた様子見の様相を呈しており、受注レベルは低調に推移しました。売上高については、当上期は、当社の想定よりやや低い実績となりましたが、今後の回復がどのタイミングとなるかは予断を許さない状況です。他方、汎用のIRカットフィルターや反射防止膜等の光学薄膜需要は盛り上がりを見せ始めており、時間の推移を経て、弊社の対象である最高級光学薄膜への展開が生じる可能性があり、弊社装置の需要にもつながると考えられます。

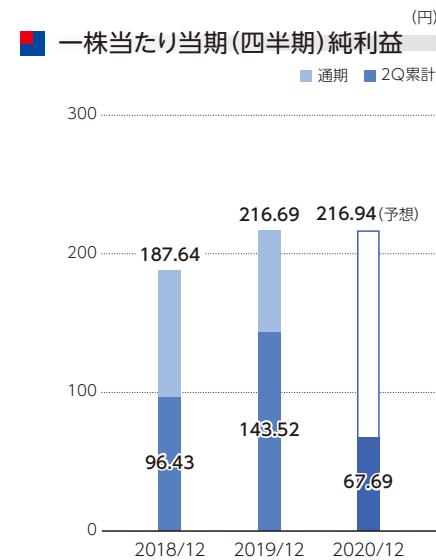
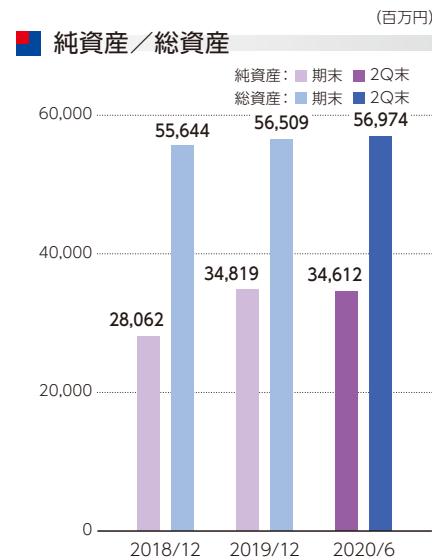
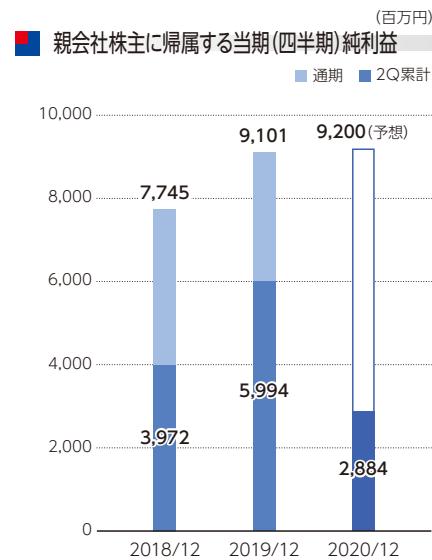
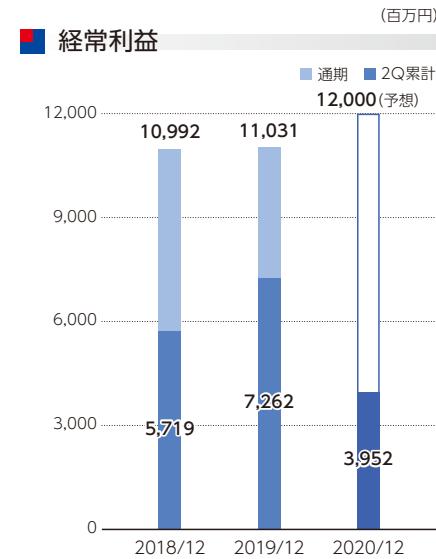
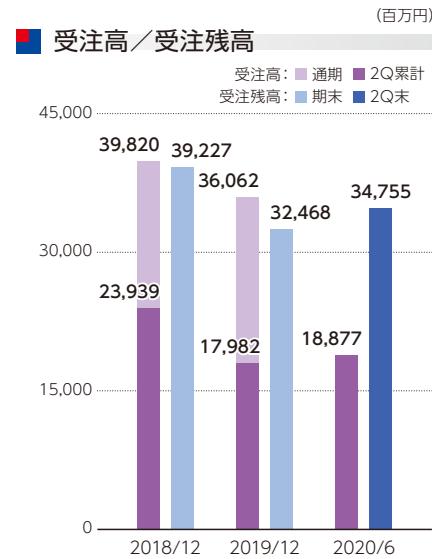
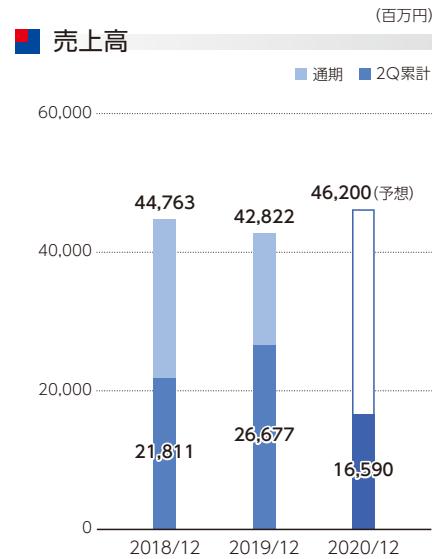
## 今後の基本的な考え方

- 引き続き、**感染予防対策の徹底**に努めます。
- 新型装置開発のための研究開発の加速、生産体制強化による生産コスト削減に注力し、**高収益率維持**を徹底します。
- 手元資金は、十分な流動性を確保しつつ、**新技術獲得のためのM&Aや投資等に資金活用**いたします。
- 株主還元は、引き続き、**連結配当性向30%程度**を目安にします。

## 研究開発費の推移



## 連結財務ハイライト



## 要約連結財務諸表

貸借対照表 (百万円)

	2019/12	2020/6
<b>資産の部</b>		
流動資産	47,193	47,472
固定資産	9,315	9,501
有形固定資産	2,763	3,052
無形固定資産	65	73
投資その他の資産	6,486	6,375
資産合計	56,509	56,974
<b>負債の部</b>		
流動負債	19,825	20,496
固定負債	1,864	1,865
負債合計	21,689	22,361
<b>純資産の部</b>		
株主資本	35,586	36,127
資本金	400	400
資本剰余金	9,513	9,697
利益剰余金	25,801	26,139
自己株式	△ 128	△ 109
その他の包括利益累計額	△ 767	△ 1,514
純資産合計	34,819	34,612
負債純資産合計	56,509	56,974

損益計算書 (百万円)

	2019/6	2020/6
売上高	26,677	16,590
売上原価	15,712	9,932
売上総利益	10,965	6,658
販売費及び一般管理費	3,568	3,005
営業利益	7,396	3,652
営業外収益	91	385
営業外費用	224	84
経常利益	7,262	3,952
特別利益	355	—
特別損失	—	1
税金等調整前四半期純利益	7,617	3,951
法人税等	1,623	1,067
四半期純利益	5,994	2,884
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△ 0	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	5,994	2,884

キャッシュ・フロー計算書 (百万円)

	2019/6	2020/6
営業活動によるキャッシュ・フロー	14,232	695
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,079	△ 461
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 2,389	△ 2,529
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 414	△ 154
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	10,348	△ 2,449
現金及び現金同等物の期首残高	15,740	26,969
現金及び現金同等物の四半期末残高	26,089	24,520

# 株式情報

(2020年6月30日現在)

## 株式の状況

発行可能株式総数 ..... 177,432,000株  
 発行済株式総数 ..... 44,358,000株  
 株主数 ..... 10,378名

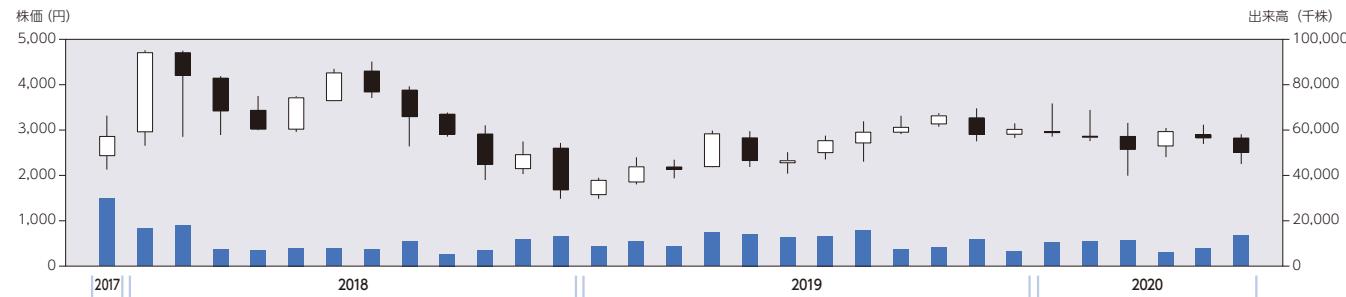
## 大株主

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
浙江水晶光电科技股份有限公司	6,507	15.24
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	3,701	8.67
株式会社アルバック	3,038	7.12
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	2,770	6.49
孫 大雄	2,469	5.78
JSR株式会社	2,310	5.41
林 為平	728	1.71
肖 連豊	648	1.52
FANG HSING PAN	529	1.24
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口5)	510	1.20

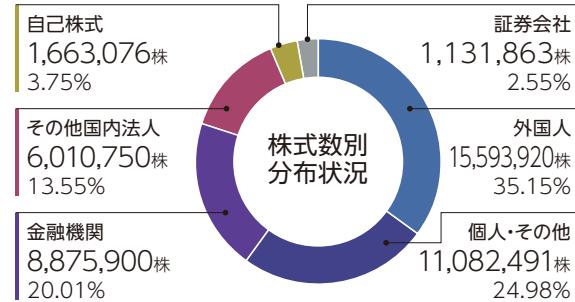
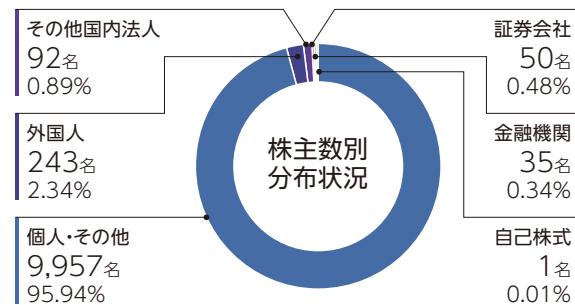
(注) 1. 当社は、自己株式を1,663千株保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。  
 2. 持株比率は自己株式を控除して計算しております。

## 株価・出来高の推移(月足)

※2017年12月20日株式上市



## 株式分布状況



# 会社情報

(2020年6月30日現在)

## 会社概要

会社名 株式会社 オプトラン  
 (OPTORUN Co.,Ltd.)  
 住所 【東京オフィス(本社)】  
 東京都豊島区西池袋1-11-1  
 メトロポリタンプラザビル11階  
 【川越技術センター】  
 埼玉県川越市竹野10-1  
 設立 1999年8月25日  
 資本金 400百万円  
 事業内容 光学薄膜装置等の製造販売

## マネジメント体制

名誉会長 孫 大雄  
 取締役  
 代表取締役 林 為平  
 取締役 高橋 俊典  
 取締役 範 寶  
 取締役 林 敏※  
 取締役 樋口 武※  
 取締役 山崎 直子※

監査役  
 常勤監査役 小林 信一  
 監査役 清野 英夫※  
 監査役 兪 建初※

執行役員  
 社長執行役員 林 為平  
 専務執行役員 高橋 俊典  
 専務執行役員 範 寶  
 執行役員 奚 建政  
 執行役員 小田木秀幸

※は社外

## 主なグループ会社

